



蕨市立病院施設整備検討報告(概要版)

# 蕨市立病院耐震整備について－既存施設の耐震化－

課題 ・耐震性能が低い ・施設設備の老朽化

蕨市立病院施設整備検討委員会で整備の方向性を検討

検討に当たっての基本的な考え方

「蕨市公共施設等総合管理計画」

基本目標 保有施設等の長寿命化

## 既存施設の耐震化

### 耐震化工法の検討

#### 耐震補強(在来工法)

- 制震補強 ✖  
剛性の高い当院の建物には不向き等
- 免震補強 ✖  
建物周辺に一定のスペースが必要等

### 耐震補強工法による耐震改修工事の検討

- ・診療を制限しながらの耐震工事  
外来12か月(外来休止あり) 収益減少見込み額 20億~27億円  
病棟21か月(入院受入れ休止あり)
- ・同時に大規模改修を実施
- ・整備費概算額 約44億円  
「資金計画」病院企業債及び国の耐震整備に関する補助制度があれば積極的に活用
- ・耐震改修工事期間 33か月(仮設棟建設等含め45か月)

### メリット

- ・耐震化及び老朽化の課題に、同時に対応することができる。

### デメリット

- ・耐震壁等の増設で機能面で使い勝手が悪くなる
  - ・立体駐車場部分も施設として活用
  - ・病床の減少
  - ・感染症対応の向上が図れない等
- ・安全に使用できる期間が2040年まで  
耐震改修後まもなく建替えが必要。  
中長期的にみると財政負担が大きい

## 既存施設の耐震化の検討結果

既存施設の耐震化は、デメリットが多く、当院の耐震整備に適さないとの判断である。  
また、検討した耐震化整備にかかわらず、整備に当たっては、多額の資金が必要であり、病院においては、運転資金以外の現金確保は困難な状況であることから、一般会計において、病院整備に向けた基金の創設が必要であると考える。

# 蕨市立病院耐震整備についてー建替え整備ー

既存施設の耐震化が難しいとの判断から、建替え整備についての検討を行う



## 現地での建替え

## 移転新築

### A案 段階的な建替え

・サービス棟(事務所等)や本館の外来、病棟をそれぞれ段階的に解体して建替える方法

- ・床面積 9200㎡
- ・4病棟 130床
- ・病床面積 8㎡
- ・工事期間 6年8か月
- ・整備費概算額 約67億円
- ・収益への影響額 約35億円

#### メリット

・現地での整備が行える

#### デメリット

- ・工事の長期化により、騒音など近隣への影響が大きい
- ・段階的な工事のため、使い勝手が劣る
- ・診療の一時的な休止などにより経営及び患者に影響がでる

### B案 外来を一時移転させて一体的に建替え

・外来部門を一時移転(別敷地)させた後、サービス棟、本館を解体し一体的に建替える方法

- ・床面積 9200㎡
- ・3病棟 130床
- ・病床面積 8㎡
- ・工事期間 3年
- ・整備費概算額 約69億円
- ・収益への影響額 約43億円

#### メリット

- ・現地での整備が行える
- ・自由度の高い設計が行える

#### デメリット

- ・工事期間中、病棟が休止のため、経営及び患者に影響がでる
- ・業務の縮小により、職員の削減が必要となる

### C案 別敷地への移転新築

・病院整備としては一般的である。移転先は未確定であるが、別敷地への移転を想定し検討する

- ・床面積 9200㎡
- ・3病棟 130床
- ・病床面積 8㎡
- ・工事期間 1年10か月
- ・整備費概算額 約61億円
- ・収益への影響額 なし

#### メリット

・通常の経営を行いながら建設ができる

#### デメリット

- ・診療圏の変更による影響の可能性あり
- ・移転地が未確定

建替え案については、課題も大きく、更なる検討の必要がある。また、高額な整備費に充てるための、一般会計から病院事業会計への繰出し金(負担金)等による市財政への影響も大きいことから、引き続き、市部局と協議を行っていく。

※令和5年3月議会において「蕨市立病院建設基金条例」を上程